

北アルプス医療センターあづみ病院
整形外科専門研修プログラム



目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 北アルプス医療センターあづみ病院について
3. 北アルプス医療センターあづみ病院整形外科研修プログラムの目標、成果
4. 北アルプス医療センターあづみ病院専門研修プログラムの特徴
5. 研修方法
 - 5.1 基本方針
 - 5.2 研修計画
 - ①専門知識の習得計画
 - ②専門技能の習得計画
 - ③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術等）
 - ④地域医療について
 - ⑤プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ⑥リサーチマインドの養成計画、学術活動における研修計画
 - ⑦コアコンピテンシー（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）の研修
 - ⑧サブスペシャリティ領域との連続性
 - 5.3 研修及びプログラムの評価計画
 - ① 専攻医の評価方法と時期
 - ② プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画
 - 5.4 当院研修プログラムの管理、運営体制
 - 5.5 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
 - 5.6 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 5.7 修了要件
6. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
 - ① 北アルプス医療センターあづみ病院スケジュール
 - ② 連携施設の紹介
 - ③ ローテーション、単位取得方法
7. 募集人数、応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

「整形外科」は、関節、靭帯筋肉、神経など人間が快適に生活するのに必要な「運動器」を扱い、その対象は上肢（肩、肘、手）、下肢（骨盤、股関節、膝、足）、脊椎など広範囲にわたり、また子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方々が対象になります。国民生活基礎調査では、腰痛、肩こり、関節痛の有訴率は常に上位であり、まさに国民病といえます。これら疾患は整形外科の扱う領域であり、社会的な需要が最も多い科の一つです。労働やスポーツ、事故による外傷も整形外科で取り扱います。

障害の発生予防、診療に関する能力を備え、最新の医療を提供し、運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。整形外科専門医は運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師である必要があります。さらに患者とのコミュニケーション能力に優れ、患者の立場に立った安全、良質の心のこもった医療を提供できる医師である必要があります。

2. 北アルプス医療センターあづみ病院について

・多様で豊富な症例数、各領域の専門医資格、指導医資格を持った指導医によるサポート体制の充実

北アルプス医療センターあづみ病院は信州安曇野、北アルプスのふもとにあります。農村地域にあり、高齢者の変性疾患は多数あります。冬季オリンピックの会場にもなった白馬村が医療圏に含まれウィンタースポーツの盛んな地域でもあるため、スポーツ外傷、スポーツ障害の症例も豊富です。整形外科で研修すべき多様な疾患を多数経験することができます。2018年の手術症例数は1000件を超え、その内容も外傷だけにとどまらず、各領域の専門性の高いものになっています。また、病院長が日本肩関節学会副理事長であり、整形外科に併設して専門性の高い肩関節治療センターを有し、長野県全体から患者が訪れます。肩関節疾患のエキスパートの医師2名のもと世界トップクラスの診療も経験することができます。上肢、手の外科の専門分野では日本手外科学会認定手外科専門医の指導のもと、バネ指、手根管症候群から、皮弁形成や腱移植、腱移行、神経移植などの上肢再建手術、切断指の再接着の顕微鏡視下手術など、血管縫合を要する専門性の高い再生手術を経験することができます。脊椎分野では日本脊椎脊髄病学会認定指導医がおり、基本的な脊椎手術、ナビゲーションによるコンピューター支援システムを用いた手術や、内視鏡などの低侵襲手術まで専門性の高い手術を経験することができます。下肢は指導医2名により人工関節手術をはじめ専門領域を研修することができます。プライマリケアの診療力を着実に養いながら、興味がある分野の研修にはより深く取り組むことができるよう、将来のサブスペシャリティなどを専攻医の皆さんと相談しながら、各連携施設と協力しながらプログラムを組みます。

「地域から世界基準の医療を提供する」北アルプス医療センターあづみ病院の恵まれた環境の中でじっくり医療に取り組み、その後の飛躍につなげてほしいと考えています。

3. 北アルプス医療センターあづみ病院整形外科研修プログラムの目標、成果

当院では、専攻医の皆さんに医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般にする基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成するため、以下の項目の修得を重点に置き、研修プログラムを作成しています。

・豊富な知識と実践力

整形外科医として、様々な疾患に対しての総合的な理解を深め、病歴聴取から診察、診断に至るまでの過程を見につけ、治療法の選択とその明確な根拠と知識を吸収し続ける能力。また、頭だけの知識にならないよう治療の経験を通して実践力を持った医師になることを目標とします。

・探求心

臨床的な疑問点を見出し、これを論理的にまとめ、解決法を論理的に導き出す能力を修得します。

・倫理観

高い倫理観、豊かな人間性をもとに、整形外科として最高の医療を提供し、患者さん一人一人に満足してもらえるような総合的な診療、人間関係を構築できる能力を修得します

・コアコンピテンシーの修得

整形外科専門医としての臨床能力（これをコンピテンシーといいます）には専門的な知識、技能はもちろん必要ですが、医師としての基本的な診療能力（コアコンピテンシー）を早期に身につける必要があります。

当院のプログラムでまず身につける目標となる「コアコンピテンシー」は次の通りです。

- 1) 患者と適切に接し、コミュニケーションを大切にし、良好な医療関係者-患者関係を構築する能力
- 2) 医師として誠実に、主体性をもって職務に当たり、周囲から信頼を得る能力
- 3) 診療記録を適切に記載する能力
- 4) 医の倫理を理解し、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 医師としての臨床的知識、技術、さらには基礎医学の知識も臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

当院整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と実践能力、高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。

4. 北アルプス医療センターあづみ病院整形外科専門研修プログラムの特徴

・豊富で幅広い分野にわたる症例数

北アルプス医療センターあづみ病院整形外科では2017年から暫定的にスタートした新専門医制度に先立ち、2007年より独自の後期研修医を迎え、指導教育を行ってきました。その経験により、より洗練された研修内容を提供します。

整形外科は、脊椎、上肢、下肢の広範な領域で運動器の機能と形態の維持・再建をめざす領域ですが、高齢化型社会をむかえた我国においては社会的受容、期待はますます大きくなっています。現在、北アルプス医療センターあづみ病院整形外科では、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、肩関節、上肢・手外科、リウマチ、骨代謝、リハビリテーションなど、日本整形外科学会が定めるすべての領域の診療・研究を学ぶことが可能となっています。連携施設は、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった2施設があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究、将来のサブスペシアリティを考えた研修を行うことができます。

5. 研修方法

研修は日本整形外科学会が定めた整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料にそって行われます。専攻医マニュアルおよび指導医マニュアルは日本整形外科学会ホームページに記載されております。

<https://www.joa.or.jp/edu/index.html>

各付属資料をご参照ください。

5.1 基本方針

専攻医は日本整形外科学会が定める整形外科専門研修プログラム整備基準に沿って、北アルプス医療センターあづみ病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。

専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」によって定められており、これにそって研修が行われます。整形外科専攻医研修マニュアルも併せてごらんください。各指導医は別添資料12の整形外科指導医マニュアルに沿って指導、評価を行います。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料7）の自己評価欄に行動目標ごとの自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は専攻医からの相談があるときは常に、あるいは勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、

専門研修修了判定を行います。修了の判定基準は本プログラム【5.7修了要件】に定めるとおりです。

北アルプス医療センターあづみ病院整形外科研修プログラムおよび専門研修プログラム管理委員会自体もサイトビジットを含む第三者の評価・指導を受けます。

またこれらは専攻医からの評価も付属資料8の通りに受けることとなります。研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は上記の評価に対して真摯に対応いたします。

5.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成する組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となります。多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9カ月で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

a. 脊椎・脊髄	6 単位
b. 上肢・手	6 単位
c. 下肢	6 単位
d. 外傷	6 単位
e. リウマチ	3 単位
f. リハビリテーション	3 単位
g. スポーツ	3 単位
h. 地域医療	3 単位
i. 小児	2 単位
j. 腫瘍	2 単位
k. 流動単位	5 単位
合計	45 単位

研修分野と習得すべき単位

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13もご参照ください。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し専門医として必要な運動器に関する科学的知識を身に着けます。専攻医の外来担当日翌日の朝には症例検討会を開催し、前日外来で経験したすべての患者について病歴聴取、診断の道筋、治療方針の決定とその考え方、カルテ記載

に検討を行い、指導医によるアドバイスを行います。各専門領域の指導医よりアドバイスを受け、プライマリケアのフィードバックをするとともに適切な治療方針を決定、その後の診療を科学的に行えます。

専門知識習得の年次ごとの到達目標は6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、自己評価表、指導医による評価表を基に知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。詳しくは評価方法、時期は【5.3①】に示しますので参照してください。

自己学習として日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成するe-LearningやTeaching fileなどを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用DVD等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修します。

本研修プログラムにおいては全研修領域の手術手技を経験できます。術者としての経験は基本的な外傷手術から、年次ごとに執刀する術式を増やしていきます。この中には各専門領域の手術も含まれ、将来のサブスペシアリティの選択に役立つような手術も含まれます。各々の領域の専門医、指導医が指導に当たり、患者さんの安全を図りながら手術の成功体験を積み重ねることにより各選考委の技術の習得を図ります。術者として経験すべき症例については、別添する資料3：整形外科専門研修カリキュラムに示した（A：それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

技能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめ、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を北アルプス医療センターあづみ病院および信州大学医学部附属病院をはじめとする連携施設で偏りがないように経験することができます。

④ 地域医療について

当院は農村部にあり、当院の研修プログラムには連携施設として域医療支援施設（地域中核病院）に認定された相澤病院があり、地域医療の研修が可能です。具体的には地域の救急体制、病診連携、病病連携、在宅医療、医療福祉の連携について理解しこれらにのっとった医療

の計画を立てられるようになります。

⑤ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討をすべての施設で行います。

⑥ リサーチマインドの養成、学術活動に関する具体的目標とその指導體制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

すべての整形外科専攻医が指導医のもと臨床研究、症例報告の仕方を学び、信州大学主催（年2回）の信州整形外科懇談会に参加、演題発表を行います。さらに中部日本整形災害外科学会での演題発表や論文執筆に挑戦します。さらに日本整形外科学会や各専門学会における発表を行うこともできます。これにより臨床研究への取り組み方を修得し、学会発表の訓練を行うことができます。また、日々の診療の中の個々の患者の疾患について常に疑問を持ち、クリニカルクエスト、リサーチクエストを作れるようになります。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（これをコンピテンシーといいます）には専門的な知識、技能はもちろん必要ですが、医師としての基本的な診療能力（コアコンピテンシー）を早期に身につける必要があります。身につけるべきコアコンピテンシーは先の研修の成果の部分で述べたとおりです。

これらが重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。北アルプス医療センターあづみ病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。当院では年間6回の全職員対象の医療安全にかかわる研修会、院内感染対策の研修会を開催し、医療安全についての知識を習得できるようにしています。

⑧ サブスペシアリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシアリティ領域として、日整会認定リウマチ医、日整会認定スポーツ医、日整会認定脊椎脊髄病医、日整会認定運動器リハビリテーション医があります。各領域には専門学会があり、それぞれ認定医、認定指導医資格を取得できる領域もあります。本プログラムの北アルプス医療センターあづみ病院および連携施設にはこれらサブスペシアリティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシアリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシアリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

5.3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価方法と時期

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料7）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムからwebで入力します。

他職種も含めた北アルプス医療センターあづみ病院および各連携施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

② プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

5.4 当院研修プログラムの管理、運営体制

① 基幹施設の役割

基幹施設である北アルプス医療センターあづみ病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

北アルプス医療センターあづみ病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

② プログラムの運営体制

本プログラムでは専門研修プログラム統括責任者を中心とし、当院の指導医、また連携施設においては各連携施設の指導管理責任者及び各連携施設指導医の協力のもと、専攻医の評価体制を整備します。また、専門研修をより良いものに常に改善するため、日本整形外科学会が作成した評価表（資料8、資料10）により専攻医、指導医のお互いの評価をフィードバックします。その際には専攻医による指導医や本プログラムの評価の内容により各専攻医に不利益が生

じることには絶対にありません。

基幹施設である北アルプス医療センターあづみ病院に整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、研修プログラム統括責任者を委員長として、定期委員会を年1回開催します。3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。

③ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 北アルプス医療センターあづみ病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。当院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

④ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文3編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

3) 専門研修基幹施設である北アルプス医療センターあづみ病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

4) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負います。

⑤ 専門研修プログラムの改善方法

年 1 回開催される専門研修プログラム管理委員会定例会で検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

5.5 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専攻医の労働環境、労働安全、勤務条件などは専攻医が在籍する基幹施設（北アルプス医療センターあづみ病院）、連携施設の各医療機関の病院規定によるものとします。

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

労働条件について各研修施設の責任者は専攻医の適切な労働条件の整備に努めます。専攻医の心身の健康維持に配慮し、過剰な時間外勤務の禁止を含めた労働時間、休日、当直業務、給与についての評価、必要があれば改善を行います。

5.6 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合があります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

5.7 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - ③臨床医として十分な適性が備わっていること
 - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
 - ⑤1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

6. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

北アルプス医療センターあづみ病院では関連病院との協力で整形外科専門研修プログラム整

備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を4年間で研修することができます。最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

また、各関連施設でもそれぞれの特色を生かし、専門的、実践的な技術を指導いたします。

① 北アルプス医療センターあづみ病院スケジュール

【北アルプス医療センターあづみ病院整形外科週間予定表】

分野	週間スケジュール					
		月	火	水	木	金
脊椎	AM	手術	病棟	外来	外来	手術
	PM	手術 病棟	外来 造影検査	外来 造影検査	手術 脊椎症例検討会	手術
下肢関節	AM	手術	病棟	AM 外来	AM 外来	手術
	PM	手術	下肢症例検討会	手術	PM 外来	手術
肩関節	AM	外来	手術	外来	手術	外来
	PM	外来	手術 病棟	造影検査	手術	外来/造影検査
手外科	AM	AM 外来	外来	手術	AM 外来	手術 病棟
	PM	PM 外来	外来	手術	PM 外来	手術
外傷*	AM	手術	手術	手術	手術	手術
	PM	手術	手術	手術	手術	手術
全体		朝 手術症 例検討会	朝 手術症例 検討会 専攻医担当新 患検討会	朝 手 術症例 検討会	朝 手術症例 検討会	朝 手術症例検討会 入院患者多職種カンファ 医師、リハビリ、看護、福 祉

*外傷は症例があれば随時手術が入ります。どの分野の研修中であっても他研修に支障のない範囲で専攻医が執刀医になれるよう配慮します。数多くの症例を経験できます。

② 連携施設紹介

本プログラムの連携施設は2施設（信州大学医学部附属病院、相澤病院）です。

・信州大学医学部附属病院

信州大学医学部附属病院は長野県内の唯一の大学病院としてより難易度の高い、また、他施設では経験できないまれな疾患を経験することができます。上肢、下肢、脊椎、腫瘍と4つの疾患班に分かれており、それぞれの専門の指導医が専攻医を指導します。本プログラムでは3年9か月の研修期間のうち、大学病院での研修を1年含む予定です。

・相澤病院

相澤病院は地域医療支援病院急性期医療を担う地域の中核病院として、地域医療連携の中心的役割を果たすとともに救急告示病院に指定され、長野県災害派遣医療チーム（長野県DMAT）指定病院として救命救急センターを併せ持ちます。1年間の救急搬送件数は700件を超え、松本地区の救急医療の拠点であり、整形外科的疾患についても様々な外傷や救急趾間をプライマリケアから経験できます。

また、整形外科に併設してスポーツ障害予防治療センターがあり、スポーツ外傷の治療や、トップアスリートを含むスポーツ選手のメディカルチェックを科学的、理論的に実践力を身につけることができます。

専攻医は整形外科医としての基本的な知識、技術を修得することが求められますが、将来のサブスペシアリティを考慮し、それぞれの特色ある医療機関での研修施設での研修期間を専攻医ごとに決定し、研修を行います。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

研修病院と指導可能領域

医療機関	新患者数	手術数	指導医数	指導可能な研修領域									
				a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
北アルプス医療センター あづみ病院	2752	1099	6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
信州大学医学部附属病院	1435	1029	16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
相澤病院	1262	1690	5	●	●	●	●		●	●	●		

専攻医ローテーション表（例）

上記のように、北アルプス医療センターあづみ病院整形外科専門研修プログラムでは関連のどの施設であっても幅広い分野の研修が可能ではありますが、それぞれの関連病院の特徴、得意分野に合わせ、また、専攻医の将来への希望に応じて研修ローテーションを組むことができます。

研修初期では外傷についての研修に重点を置いてのちにサブスペシャリティーについての研修を行うようなローテーションも可能ですし、初期に幅広い分野の研修を行ってから興味を持った分野の単位を流動単位として修得するというパターンもありえます。

当院のプログラムでは少人数の専攻医となるため、その利点を生かし、それぞれの専攻医の希望を組み、フレキシブルなローテーション計画を立てることが可能です。

単位取得のパターン

例1		1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
		あづみ病院	信州大学病院	相澤病院	あづみ病院	
a. 脊椎・脊髄	6		3		3	6
b. 上肢・手	6	3		3		6
c. 下肢	6		3	3		6
d. 外傷	6	3			3	6
e. リウマチ	3		3			3
f. リハビリ	3	3				3
g. スポーツ	3			3		3
h. 地域医療	3	3				3
i. 小児	2				2	2
j. 腫瘍	2		2			2
k. 流動単位	8		1	3	1	8
合計	48	12	12	12	9	45

例2		1年目	2年目	3年目	4年目	修了時
		あづみ病院	相澤病院	あづみ病院	信州大学病院	
a. 脊椎・脊髄	6			3	3	6
b. 上肢・手	6	3		3		6
c. 下肢	6		3		3	6
d. 外傷	6	3	3			6
e. リウマチ	3	3				3
f. リハビリ	3			3		3
g. スポーツ	3		3			3
h. 地域医療	3	3				3
i. 小児	2		2			2
j. 腫瘍	2				2	2
k. 流動単位	8		1	3	1	8
合計	48	12	12	12	9	45

プログラムにおける指導医と指導領域

氏名	所属	指導担当分野									
		脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療
畑 幸彦	北アルプス医療センター ーあづみ病院		○				○			○	
石垣 範雄	北アルプス医療センター ーあづみ病院		○		○				○		
向山 啓二郎	北アルプス医療センター ーあづみ病院	○							○		○
太田 浩史	北アルプス医療センター ーあづみ病院			○	○						○
中村 恒一	北アルプス医療センター ーあづみ病院		○				○		○		

狩野 修治	北アルプス医療センターあづみ病院			○	○							○
高橋 淳	信州大学医学部附属病院	○				○		○				
林 正徳	信州大学医学部附属病院		○		○			○				
天正 恵治	信州大学医学部附属病院			○			○				○	
中村 幸男	信州大学医学部附属病院			○		○		○				
倉石 修吾	信州大学医学部附属病院	○			○		○					
青木 薫	信州大学医学部附属病院							○	○	○		
岡本 正則	信州大学医学部附属病院				○			○	○			
下平 浩揮	信州大学医学部附属病院			○		○	○					
鬼頭 宗久	信州大学医学部附属病院				○		○			○		
田中 厚誌	信州大学医学部附属病院				○			○	○			
上原 将志	信州大学医学部附属病院	○			○	○						
小山 傑	信州大学医学部附属病院			○	○		○					
大場 悠己	信州大学医学部附属病院	○				○		○				
山崎 宏	相澤病院		○		○							
保坂 正人	相澤病院		○		○							
小平 博之	相澤病院			○	○							
成田 伸代	相澤病院			○	○							
大柴 弘行	相澤病院			○			○					

③ 専門研修指導

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日

本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次3名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準から上記のようになり、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次2名、合計8名と設定しました。

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはeメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

北アルプス医療センターあづみ病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ
必要書類：

- ① 申請書（ダウンロード）
- ② 履歴書（ダウンロード）
- ③ 医師免許証（コピー）
- ④ 医師臨床研修修了登録証（コピー）
- ⑤ 健康診断書

【募集期間】2021年8月～

【問い合わせ先】

〒399-8601 長野県北安曇郡池田町池田 3207-1
北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科
担当：向山啓二郎（研修プログラム副統括責任者）
Tel：0261-62-3166 Fax：0261-62-2711
<http://www.azumi-ghp.jp/>

【病院見学の申し込みについて】

北アルプス医療センターあづみ病院では随時、病院見学を受け付けております。
見学日程など（午前、午後、手術見学や医師、コメディカルの話を聞きたいなど）
お気軽にお申し込みください。

【見学の問い合わせ先】

〒399-8695長野県北安曇郡池田町池田3207番地1
JA長野厚生連 北アルプス医療センターあづみ病院
医療秘書室宛 担当：浦野・矢口・三浦
TEL：0261-62-3166 FAX：0261-62-2711
<http://www.azumi-ghp.jp/> ホームページ内申込フォームからお申し込みください。